



歌川国芳 「宮本武蔵の鯨退治」 より構成

🔔 フェスタ フォーラムの報告

2019 年のフェスタフォーラムは「SDGs－持続可能な社会をめざして」を基本テーマに「基調講演」と「シンポジウム」の二部構成で行われました。

第 1 部「基調講演」は小宮山宏氏（三菱総研理事長・第 28 代東京大学総長）より「プラチナ社会へのイノベーション」（プラチナ社会とは、「地球が持続し、豊かで、人の自己実現を可能にする社会」）と題してお話がありました。

講演は、プラチナ社会の実現に向けて「①人類史の転換期、②オリンピック・パラリンピックを持続社会のショーウィンドウにする、③日本でイノベーションをいかに起こすか」の 3 項目について行われました。①は主要国の一人当たりの GDP、平均寿命、CO2 濃度、自動車の普及、鉄の使用が飽和に達している。そこで、これからは、資源の心配がないエコロジー社会の実現、自己実現を目指す雇用、選択の自由等プラチナ社会運動が必要だと例示。②はオリ・パラの各メダルが、回収された携帯電話等から取り出された「金・銀・銅」からできていること等を例に挙げられ、資源の再利用等プラチナ社会の実現に向けての PR 機会にしたいと例示。③では大学がイノベーションの拠点となり学生がエンジンになるべきとして、弘前大学や種子島の事例を紹介されました。



講演内容は図表や写真を用いつつ時折冗談やユーモアを交えながら和やかな雰囲気の中で行われ、ほぼ満員の 401 教室の聴衆を魅了しました。

第 2 部は、基調講演を受けて、持続可能な社会を目指すために多様な取り組みを実践されている小宮山宏氏（前述）、中村桂子氏（JT 生命誌研究館館長）、吉原毅氏（城南信用金庫顧問、原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟会長）、太田猛彦氏（FSC ジャパン代表、東京大学名誉教授、かわさき市民アカデミー学長）、コーディネーター林勝彦氏（科学ジャーナリスト）の 5 名によるシンポジウムが行われました。



中村氏から、地球には多様な生き物がいて人間とつながっている。人間は変わらなければならないと。吉原氏は、原発に頼るのではなくソーラー等自然エネルギーの活用が必要であると話されました。太田学長は、地球環境が悪化している現在、森林の重要性、森林の管理を消費者に理解と協力をしてもらう必要があると話されました。

SDGs とは、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略称です。

2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。（外務省）

2019年度第5回理事会(10月24日-木、15時30分)開催**1) 主な審議事項**

- 職員の増員について
業務改善報告書が提出され、その内容、増員に伴う今後の財務収支等検討されたが、経営の見直し等再度検討することで継続審議となった。

**2) 主な報告事項**

- カリキュラム企画・編成委員会
2020年前期の講座・WSのテーマ・内容等について検討中
- 4部会長会議(総務、広報、事業推進、地域連携部会)
 - ・受講生の皆さまへの寄附のお願いについて
 - ・東京新聞へのコラム掲載原稿募集について

フェスタ'19の報告 11月9日(土)・10日(日)開催

受講生の皆様には、お忙しい中のフェスタにご参加いただきありがとうございました。今年も受講生の皆さまには成果の発表、展示、書籍・品物のご寄付等のご協力をいただきました。また、各種イベントでは地域の皆さまの様々なご協力のもと、会場を盛り上げていただきました。ご協力いただいたサポートスタッフ、関係者の皆さまにはお礼申し上げます。

今回のフェスタでは、新しい企画としてフェスタフォーラム(1面参照ください)、子育てフォーラム、子ども向け体験講座を行いました。二つのフォーラムと「インパル作戦」の講演・映画は盛況で熱気にあふれたものとなりました。一方では、お子さま向け体験講座は地下1階での開催となったこともあり、目につきにくい会場になったことは残念で、来年への反省点となりました。

土曜日と日曜日の午前中は近隣やシニア層の来場者が多数来られましたが、日曜日の午後來場者の足がピタッと止まりました。七五三、令和天皇の祝賀御列の儀、その他のイベントの影響があったのかもしれませんが、日程調整の難しさを痛感いたしました。(フェスタ'19 実行委員長)

**太田猛彦学長
かわさき文化賞贈呈式**

11月7日(水)、川崎市文化賞等贈呈式・祝賀会が川崎市国際流センターで行われました。



太田学長の受賞は、2007年から市民アカデミーに関われ、講師や副学長、学長を務められアカデミーを年間延べ約8000名の受講生が学ぶ市民大学に育てられた実績を評価されました。

ご寄附のお礼と再度のお願い

多くの皆さまにご寄付をいただきありがとうございました。目標の250万円まであと一步となりました。引き続き、ご寄附をお願い申し上げます。

寄附金 1口 1,000円
(口数の上限はございません)

問い合わせ先

かわさき市民アカデミー事務局

電話 044-733-5590

※事務局に郵便振替用紙を用意しております。
(総務部会長)



写真集



今年は
バルーンの
不思議の国の
アリスがお出迎え



玄関を飾るお花
中原区文化協会
伊藤紅華先生



体験講座
シャドーキルトの
コースター



フェスタフォーラム
SDGsシンポジウム



喫茶



環境とみどり
展示「SDGsの実行を」



地場産野菜販売
地元農家の皆さん



フェスタDeスポーツ
ウォーキングサッカー



フェスタDeコンサート
ヴィオラ演奏家 妃城さん



熟議公開グループ討論
「理想の図書館とは」



子育てフォーラム
「うんこのおやし学」



地下1階体験講座



芸術WS受講生作品展

◆新刊案内◆ かわさき市民アカデミー双書6

『社会のためのデモクラシー

——ヨーロッパの社会民主主義と福祉国家』

政治・社会講座での宮本太郎(スウェーデン)・水島治郎(オランダ)・網谷龍介(ドイツ)各先生の講座と杉田敦先生の篠原一先生追悼特別講座での講義を採録し、小川有美先生が総論としてヨーロッパ社会民主主義の動向を書かれています。お世話になった先生方の講座風景を思い浮かべながら、ぜひ、ご一読下さい。事務局で販売(1300円)



📍コーディネーターの先生にお聞きしました

「コーディネートの苦勞とは……」

副学長 小澤 弘 (日本史、エクセレント)

かわさき市民アカデミーとの出会いは8年程前、前副学長の鈴木哲氏から絵画資料の講座打診が最初でした。その時は公務多忙で無理とご返事し、退職した2014年に約束の日本史WS「絵解きで探る近世」を行いました。その折、日本史世話人の方々と打合せをし、大学院ゼミでもやらない方法での実施は困難を想像しましたが、案に相違して熱心な受講者の発表姿勢に、むしろ院生に見習わせたいと思いました。その後、コーディネーター、副学長の役に就きました。



現在は、日本史講座・WS、エクセレントⅡ講座を主とし、来年度の交流館協力講座、宮前講座の編成にも関わり、世話人からのテーマや内容の要望をできるだけ考慮した講座と講師の推薦を行ってきております。

コーディネーターの苦勞の第一は、現役大学人に講師依頼するのが非常に困難となったことです。当アカデミーでは、講座日時が決まっていることも、難しさを生じます。これは豊かな講座数と表裏一体の悩みですね。それでも、新しい視点での講座を世話人の方々と一緒に試みております。幸いなことに、定年を迎えた学界の友人たちが多くなり、講師や相談にに応じてくれて安堵しています。

「もっともっと 川崎を知ろう」

副学長 田中 宣一 (川崎学)

川崎とは、多摩川の流れ(崎・岬)というほどの意味です。この地名が広く知られるようになったのは、近世の比較的初期、東海道の宿場の一つとして川崎宿が設けられてからのことでしょう。近代に入ると明治22年に川崎宿を中心に川崎町が誕生しますが、まだ狭い範囲でした。それが周辺町村との合併を重ね、昭和14年(1939)に、現在の市域に定まりました。ここには近世に80ほどの村がありました。もう川の流れだけではなく、多摩川中下流右岸30キロメートル余に沿い、背後に丘陵を背負う、堂々たる市域になったのです。



市域には、古来、農・林・漁・商業に従事し、物作りに励み、地域を守る多くの人の営みがありました。近代以降は日本を支える工業も発展し、大規模商業地域も形成され、文化的施設も充実してきました。交通の発達とともに東京・横浜などに通うサラリーマンも増え、現在、人口は150万近くになっています。聴講されている方は、そのお一人お一人なのです。かわさき市民アカデミーにおいて、人文・社会・自然科学の素養を確かにされるとともに、地元の過去・現在にももっともっと目を向け、未来に向け発展する川崎を考えていただけたらと願っています。

編集後記

▷恒例のフェスタが開催されました。今回のフェスタは、実行委員会や受講生企画によるフォーラム、熟議や講演・映画が多数の来場者を集めた一方、昨年まで増え続けた近隣のご家族連れの来場者が減少したように思われます。フェスタ実行委員長を務めます身にとっても考えさせられる結果です。

▷シリーズ『コーディネーターの先生にお聞きしました』も2回目です。これからも先生方のお声をお伝えできるようにしてまいります。

(かわら版編集委員 中澤)

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3F

電話：044-733-5590

FAX：044-722-5761

問合せメールアドレス：

info@npoacademy.jp

ホームページ：

<http://npoacademy.jp/>